

【北陸技術士懇談会 令和6年度

第1回技術研修会（現地見学会）報告】

1. はじめに

令和6年10月26日（土）、福井県内において、「ふくい技術士交流会」との共催により、第1回技術研修会（現地見学会）を開催し、富山・石川・福井の会員33名が参加した。

2. 永平寺門前再構築プロジェクト

曹洞宗大本山の永平寺において、平成27年度～令和元年度に永平寺・永平寺町・福井県の3者が協力し、森ビル㈱による総合的なデザイン監修のもと行われた永平寺門前の環境整備の概要が福井県の橋本盛夫会員により紹介された。

〔3者の役割分担〕

- 永平寺：外国人観光客向けの宿泊施設
（柏樹關：ハクジュカン）の整備
- 永平寺町：参道における石畳の整備
- 福井県：永平寺川の改修

永平寺川の改修においては、森ビル㈱によるデザイン画を元に、景観アドバイザーの福井県立大学 進士学長（当時）により、石積の天端を直線的に作らずわざと凹凸をつけるなどの修景が行われている。また、年月の経過とともに石積などの人工物に苔や草木が生い茂り、自然に溶け込んで良好な景観を形成していく「エイジング」という考え方が取り入れられている。

河道に無作為に配置した捨石に流下してきた自然石が引っ掛かり、意図しない落差工が随所に生み出され、完成から数年が経過した現地には草木が茂り、周辺施設と調和した趣深い河川景観が形成されていた。



【柏樹關と永平寺川、石畳参道が調和した景観】

3. 一乗谷川の改修（一乗谷朝倉氏遺跡）

次に、戦国大名「朝倉義景」の居城であった一乗谷朝倉氏遺跡を貫流する「一乗谷川」の整備事業（平成27年度「土木学会デザイン賞」最優秀賞）の現地見学が行われた。

一乗谷朝倉氏遺跡は、国の「特別史跡」・「特別名勝」・「重要文化財」に三重指定された重要な遺跡であるため、発掘を担当する調査員とも密接に連携しながら一乗谷川の整備を進める必要があったことが福井県の脇本幹雄会員から説明された。

朝倉館跡付近に出土した戦国時代の石垣をそのまま現代の護岸の一部として活用したこと、また、朝倉館跡の堀の水質維持のため、一乗谷川からの導水路を石積護岸に併設して整備したこと、さらに、魚の遡上も可能な多段式の石材による落差工の整備など、遺跡景観との調和や生態系にも配慮した様々な工夫やアイデアが随所に見られた。



【一乗谷朝倉氏遺跡の中を流れる一乗谷川】

4. 一乗谷朝倉氏遺跡博物館

最後に、実物大で再現した朝倉館が展示されている「一乗谷朝倉氏遺跡博物館」を見学し、将棋の「酔象」の駒など、遺跡内で出土した数々の貴重な文化財について、ガイドから説明を受けた。

なお、「酔象」の駒は敵陣で成ると「太子」となり、王将を取られても負けにならない「朝倉象棋」固有の駒である。奇遇にも1週間前に「竜王戦」が福井県で開催されており、その際に同館を訪れた藤井聡太七冠もこの「酔象」の駒を見学したとのこと。

また、博物館の工事に伴い偶然発見された「石敷遺構」（戦国時代の川湊とされる）が館内の出土した位置にそのままの姿で大規模に展示されており、当時の人々の営みに思いをはせる時間となった。

（福井 飛石 勝）